2025年　性虐待被害者のための祈りと償いの日　分かち合いのガイド

＜暴力の加害者になりえる私たち－言葉による暴力のケース－＞

教会は、誰にとっても安心・安全な場所。暴力とは無縁の、愛と祈りにあふれた場所。
そのように思っている方が多いと思います。
しかし、目に見える暴力は起きていなくても　目に見えない暴力によって、
しらずしらずのうちに、自分が暴力の加害者になっているかもしれません。

教会の中で、（こんな言われ方をして）傷ついてしまった、
居づらく感じてしまったということ、
また（そんなつもりではなかったのに）傷つけてしまった、
不快な思いにさせてしまった、黙らせてしまったということなど
ともに考えてみませんか？

下の説明を読んで感想を話し合ってみましょう。

ハラスメントとは

ハラスメントとは、相手が不快に思い、相手が自身の尊厳を傷つけられたと感じるような発言・行動のことを指します。たとえ相手を「傷つける」「いじめる」という意図がなくても、相手が不快な感情を抱けば、ハラスメントは成立します。ですので、ハラスメントの加害者は、自分の発言や行為がハラスメントであると認識していない場合がほとんどです。

教会で傷ついた言葉の例

・日頃のコミュニケーションの中で

「信者は〇〇であるべき」　「当然〇〇な筈なのに」　「洗礼を受けるのが早かったね」
「信者としての経験が浅いから…」　「教会では許されていない」
「あなたがやることじゃないでしょ」　「あの人　きちんと教会に来ていないでしょう」
「聖職者には従順であるべき」　「我慢して頑張って立派ですね」
「苦労や苦しみもお恵みですよ」　「責任を果たしあわなければ教会は成り立たない」

（「相手の事情を考慮しない、教会の掟や決まりの一方的な強調」「自分の信仰理解や教会観、価値観の押し付け」「無自覚な偏見や思い込みから発せられた言葉」「相手に沈黙を強いる言葉」）

・ハラスメントの被害者に対して

「あの人がそんなことをする筈がない」　「どっちも悪い」　「許しなさい」
「祈りましょう」　「神様は乗り越えられない試練を与えない」
「いつも派手なかっこうして…」　「スキがあったんじゃない？」
「あなたはどうして逃げなかったの？」「早く忘れましょう」
「気にしないことにしましょう」「広い心で受け止めたらどうか」
「もっと大切な将来の生活があるでしょ」

（「加害者擁護や被害者非難につながる発言」「二次被害につながる安易な解決の促し」）